

明治十六年三月再刷

白隠禪師述

安心はこりたゝま

一名 佛法ちよぼくれ

白隠和尚略傳

師名ハ惠鶴號ハ白隠駿州原の人なり幼あき時より僧の地獄の苦患と説を聞て大に恐怖と是より出離を求むる心あり遂に邑の松蔭寺に入て出家す志かこより東西に行脚して志きりに耆徳の門をうかゞふ後信州の正受老人に参して身心を打失す悟後の修と修して大に宗風を振ひ門下に十餘員の知識を得たり實に近世の活僧なり明和五年十二月十一日寂す壽八十四 勅して神機獨妙禪師と謚す

安心ほこりたゝき

白隠禪師 述

歸命頂禮御釋迦如來、やれく皆さん聞てもくんねへ、おらが親父を何處のお人も悉多太子か知らぬが佛か、若い時うら商ひ好にて親の讓の家も位もすぼんと打すて十九の年から山へはいりて阿羅邏迦蘭の二人の仙人、師匠と頼みて、茶摘水汲薪と樵てな奉公勤めて、元手をこしらへ、十二年目に初めて店出と華嚴と名けら

白隠和尚略傳

師名ハ惠鶴號ハ白隠取州原の人なり幼き時より僧の地獄の苦患と説を聞て大に恐怖し是より出離を求むる心あり遂に邑の松蔭寺に入て出家す志かじより東西に行脚して志きりに耆徳の門をうかぶふ後信州の正受老人に参して身心を打失す悟後の修と修して大に宗風を振ひ門下に十餘員の知識を得たり實に近世の活僧なり明和五年十二月十一日寂す壽八十四 勅して神機獨妙禪師と謚す

安心ほこりたゝき

白隠禪師 述

歸命頂禮御釋迦如來やれく皆さん聞てもくんねへ、おらが親父を何處のお人も悉多太子か知らぬが佛か、若い時うら商ひ好にて親の讓の家も位もすぼんと打すて十九の年から山へはいりて阿羅邏迦蘭の二人の仙人師匠と頼みて茶摘水汲薪と樵てな奉公勤めて元手をこしらへ十二年目に初めて店出し華嚴と名けし

結構な代呂物賣てみられと、文珠普賢の二人は買たが、  
餘り高くて、其餘のお客の盲か聾か見向もせぬから、是  
でいかぬと、分別仕替て阿舎と名けと、安物賣かけ、口  
上捻れば、店先せわしく、お客が来るやら、得意が付やら、  
そこで追々仕呂物仕入て、商ひ手廣に、方等般若に、法華  
や涅槃と、お客の機と見て、夫々あてがふ、商ひ上手に、須  
達長者と呼ぶ、金持、とゑらふ惚とみ、祇園精舎と名高  
ひ屋敷を、お釋迦にあてがひ、大店開け、早速其名が諸  
方へひろがり、とてつものなひ程、商ひ繁昌、天上天下に、一

人の親玉譽てもくねへ、その時賣出す妙法の精薬法  
華の一法、盛んに流行て、お若い嬢さん、龍女と申が、之と  
買すけ、とつくり吞込、成佛あされた、と、此人、文珠の  
化物、智慧があるから、さとりも開けた、我等が鼻と、いど  
ゑらい違ひた、又々其時、韋提希夫人と、申せと女中は、智  
慧も元手も、さつぱりなひのに、阿闍世と申して、不孝あ  
御太子、提婆達多と、心を合せて、親もお釋迦も、仕舞ての  
けろと、頻婆沙羅王、牢屋へをこ込、憂目に合せた、そこで  
韋提ハ、不樂閻浮と、此世と厭ふて、わたしのやうなる、五

障三從重き病ひの直る薬りがあるあら下され、お願ひ  
 まふすと、お釋迦に向つて、遙かにたのめば、お釋迦の合  
 點五三の桐たよ、此様なお客が大かたあろふと、已前父  
 君、淨飯大王、其外一門、勧め吞せて、極樂淨土へ送り届け  
 と、秘密の妙方、甘露で煉あげ、平等大悲の、大事の奥の手、  
 大切ものゆへ、四十餘年のながの月日をお藏へ納めて、  
 たとあみ置たが、さらば是から、賣かけまふやうと、法華  
 の商ひ、とばかり休みて、阿難目蓮二人の手代を、左右に  
 めと連れ、玉宮さとしてお出現をされて、韋提希夫人に、彌

陀の本願、他力の念佛、五劫兆載、思惟の薬味、諸佛菩薩  
 や、六度の行まで、一つに合せた、六字の丸薬、一向專念男  
 も女も、産前産後も、さし合ごさらぬ、智慧も元手も、さつ  
 はりいらかい、口にまかせて、唱ふるばかりた、さうで其  
 方へ、心想事成、劣未得天眼、智慧が虚弱で、元手の足らなひ、  
 お脈も見ぬいた、三毒重病、まして難治の、極重惡病、是ら  
 の症に、是より外に、用ふる薬ハ、決してなひぞと、お  
 勧めあされた、韋提の元より、五百の侍女まで、無始より  
 このかた、積りと罪業、煩惱疑惑の、積氣の持病に、三世の

諸醫師も匙を投たる大病ありしが、其場で現益阿耨多  
 羅<sup>ら</sup>く、汗が流れて、即日平愈、何とみなさん、六字の丸藥、  
 不可思議妙法、梵語をそのまま、用ひてみなさい、元手の  
 いらぬが、肝心要めだ、餘り無造作で、祖父婆々たましの、  
 古代呂物かど、ちつくり疑がひ、何ぞ利口な物、いなひか  
 と、知識に問たら、直指人心、見性成佛、お釋迦が即ち、堯  
 爾と笑へば、迦葉がいつこり、笑ふた受賣、是が本法、一嗣  
 相傳、さどりの眼を開いて見たれば、お釋迦も我等も、是  
 の何物、本來面目、無一物とい、こりや又とゑらい、掘出も

のたど、座禪と始めて、やりかけました、が膝がぶりく、  
 おり付ますやら、睡りがくるやら、背中をどやされ、大き  
 あね目玉、爰が何でも、辛抱どころと、氣張て見たれば、三  
 年昔に、隣へかしたる、黑豆三合、糠一升、思ひ出して、忘念  
 山く、是も我等が、性にはあいなひ、商賣替ふと、眞言秘  
 密を、どの様あ物たど、尋ねて見たれば、阿字本不生で、自  
 身の胸にも、阿字が備はり、羅字の元より、差別と分れて、  
 五智も五大も、この胸一つで、父母の腹から、生れた處に、  
 金胎兩部の、大日法身、直に佛の位で、ごんすと、聞とそ

まゝ、ねんあぼさまやべいを、やりかけたれども、元手も持  
 ずに、自力の商賣して見るやうある、ばかぼたらにて、阿  
 字やら、羅字やら、さつぱり知れなひ、そこで圓頓妙法連  
 華の、即身成佛、さても無上の、妙劑あれども、丸讀解行の  
 我等が下根に、及びもなひ故、題目ばかりの、看版ぐらゐ  
 じや、出る息ばかりで、功能の分らざ、元手がなひから、丸  
 での買れき、四十餘年、未顯眞實、何の事だと尋ねて見  
 れば、六字を廣げた、法華經八軸、故に六字の、法華の肝要、  
 ね經の略にて、藥王品に、妙典八軸、吞こむ時に、西方

極樂阿彌陀の淨土へ、生れて往ぞと、説てあるとよ、何も  
 勘定廻りく、て、遠道せうより、路銀のいらあひ、南無阿  
 彌陀佛で、すゑに往のが、一ばん近みち、なんと皆さん、そ  
 うでのなひかへ、まんたあるぞへ、みあさんきゝねへ鼠  
 ごろもで、夕飯くハ、すに、二食で暮して、戒行たもつハ、始  
 末勘略、利口な算用、とか、我等ハ、蚤も虱も、取らまじや  
 置かねへ、手をバ出して、盗みハせぬども、心にほこくて、  
 錢金持たし、鼻もなければ、子種がなくなる、嘘も少しハ、  
 つかねハあらぬと、酒ものまねハ、嫁入婚とり、振舞その

外世間が渡れぬ、何と是でハ五戒も持てぬ、これハ尙さ  
 ら、買てがすくなひ、店のさびるが、世界のためたよ、これ  
 がはやりて、賣ひろがるあら、息子も比丘さま、むすめも  
 尼さま、むら役町やく、坊主あたまで、田地も作らき、酒屋  
 もなけれバ、和尚に嫁入の、媒酌もあるまひ、ろれでハ世  
 間に、人種なくなり、人間世界が、つぶれてしまふぞ、とて  
 も我等に、自力のあきあひ、とやうと思へど、根氣と元手  
 が、かくてハ出来ぬと、どうでも親父の、教にまかせて、元  
 手のいらなひ、他力念佛、六字の妙薬、我らが病氣に、てつ

きり合ます、と、かく元手が、澤山あるなら、自力の商ひ、な  
 されてどろじろ、細い元手で、あきあひ仕かけて、棒でも  
 折たら、逐地も去地も、茶の木乃畑で、お迷ひなさるぞ、む  
 かと咄とを、聞てもみなさい、十方諸佛が、ハ釋迦の證人、  
 文珠普賢や、後佛の彌勒も、たしかに受とる、諸宗の祖師  
 たち、智慧と元手が、澤山あれども、六字の丸薬、たすてハ  
 なされぬ、まして我等ハ、智慧も根氣も、元手もなひから、  
 自力の足なへ、他力のハ船に、乗より外にハ、分別ござら  
 ぬ、凡夫がそのま、佛に、あるとハ、石や瓦が、不思議に變



じて黄金とあるのた、それが嘘なら、三昧發得なされた  
 れ方に尋ねてござるじろ、何と皆さん、うれしいこんだぞ、  
 儒道や神道、心學かんとが、あきなひ敵きで、色々さましく、  
 惡口いふとも、我が親父の、仕來り商ひ、格段違ふた、とる  
 らひものたよ、根元本店、天竺横町、それから唐土、日本へ  
 見世たし、八宗九宗と、商ひ繁昌、弘め九代呂物、いやだと  
 云たら、そこらに居られぬ、恐れれほひが、聖德太子や、菅  
 公楠家の、歴々さまでも、れ用ひあさるゝ、夫が中にも、織  
 田の信長、妙法蓮華のはたをかびかせ、軍とあされて、大

方天下は、治りたれども、信心堅固の、元手があいから、や  
 うく 一代、明智の謀叛に、さつぱりこまつた、まふすも  
 恐て、いはれぬけれども、權現さまのあ、六字の九藥、軍の  
 中でも、お用ひなされて、欣求淨土の、御旗ととし立、天下  
 となびうせ四海と泰平、御世萬々歳とおつぎあそばす、  
 何とみあさん、ごぞんじあらふが、うそでいなひぞへ、是  
 をみあさん、手本にあされて、六字の丸藥、家内へすゝめ  
 て、朝夕不斷に、忘れず用ひば、仕事とあがら、罪障消滅、闇  
 夜の歩行も、おそれのあひぞへ、四海靜かに、現當繁榮、子

孫の長久今世の祈禱も、來世の利益も、是に過たる薬の  
おひぞへ、嘘いつらねへ、これみあお釋迦の味噌でいど  
さらぬ、本法のことたよほうい〜

明治十五年九月一日御届

同年同月十日出版

明治十六年三月七日再版御届

同年同月卅日出版

(定價參錢)

校正兼出版人

愛媛縣平民

山本 貫

東京橋區築地三  
百廿四番地寄留



東京本所區外手町卅九番地

新報社

同淺草區北松山町廿七番地

伊藤清九郎

西京區井通花屋町上

片山專助

賣 捌 所

其他各佛敎書林、賣捌申候

十三年四月七日發行

孫の長久今世の祈禱も、來世の利益も、是に過たる藥の  
かひぞへ、嘘ハつらねへ、これみあお釋迦の味噌でいご  
さらぬ、本法のことたよ、ほうい、

明治十五年九月一日御届 同年同月十日出版  
明治十六年三月七日再版御届 同年同月卅日出版

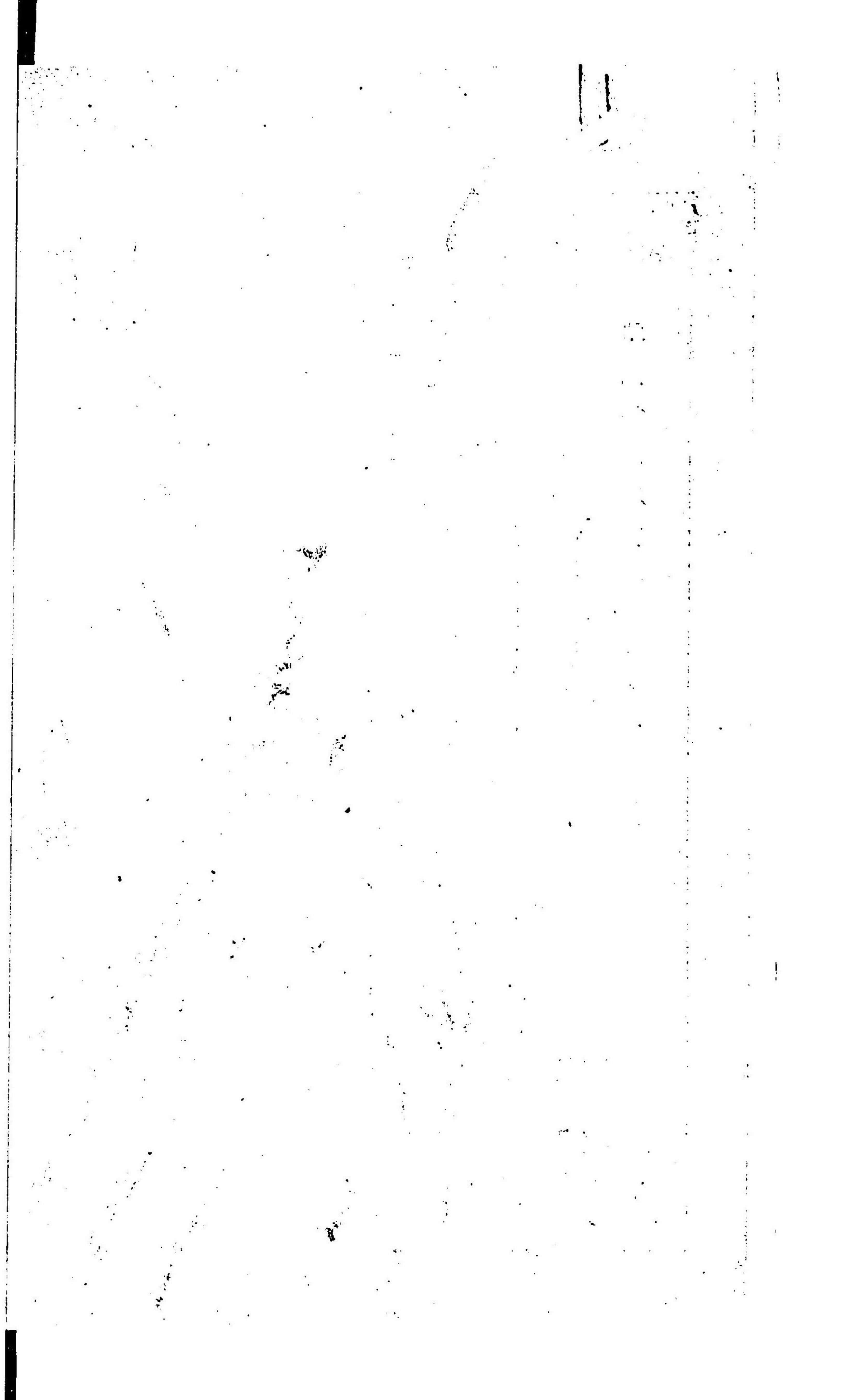
(定價參錢)

校正兼出版人 愛媛縣平民 山本貫通

東京京橋區築地三丁目  
百廿四番地寄留

賣 東京本所區外手町卅九番地 新報社  
捌 同淺草區北松山町廿七番地 伊藤清九郎  
所 西京醒井通花屋町上ル 片山專助  
其他各佛教書林ニテ賣捌申候

十六年四月七日局交付



019317-000-8

特16-336

安心ほこりたたき 一名仏法ちよぼくれ

白隠／述

M16.3

ABG-0003

